

【二中ゾーン 令和5年度の取り組み】 ※囲みは本年度に取り組んだもの

1. 地域の子供たちに描く児童・生徒像、卒業後の姿など、このように育てほしいといった願いやこれから目指すこと

- ・地域の方との交流（お互いの顔が見える取り組み）
- ・郷土愛の育成
 - ・ 狛江に対する愛着
- ・人に感謝する気持ち
 - ・挨拶が良く出来ている
- ・多摩川清掃、水辺の楽校

2. 二中ゾーンの地域の特色や特徴（学び・環境・活動等）など、教育活動に行かせること（生かしてほしいこと）

- ・多摩川のより以上の活用
- ・多摩川地域のいい所を活用して小・中学校の生徒と一緒に活動していく
 - 例
 - 駒井の野菜を使った芋煮会、ハロウィーン、盆踊り、餅つき、防災教育、水辺の楽校の活用、芋掘り・大根掘り、焼き芋、地域のお祭りの復活、災害用アルファ米炊き出し訓練キャンプ、子ども食堂、町内との交流、子供対象の料理会、異文化交流（遊び、食事、音楽）、ボーイスカウトなどの活動
 - 企業など含めた社会体験、小売（客を含めむ）活動：親の監視の元
 - どんと焼き、獅子舞、豆まき、こまい保存食、ふれあい広場などで期限切れ・あまりをスポレク、小学校給食（外国の食材）、情報提供サービス（狛江LINE みたいな）

3. 1と2であげた児童・生徒像、願いや目標に対し、どのような活動が必要か（学校・地域）

- ・ねぶた祭り：地域で協力して一つの物を作り上げる
 - 参加しやすい地域の祭り
- ・市歌が歌える
 - 遊びによる交流（外国籍の人、高齢者）
- ・地域で活動発表の場を設ける
- ・二中ゾーン小中学校と地域の方々に音楽での交流と発表の場

南部地域センター40周年（二中）

南部地域センタークリスマスコンサート（二中・六小）



その他、市民まつり等の地域行事への出演（三小・金管楽器、六小・合唱、二中・吹奏楽、合唱等曲）

4. 地域の子供たちに描く児童・生徒像、卒業後の姿など、このように育てほしいといった願いやこれから目指すこと

上記1の児童・生徒像や社会の変化等を踏まえ、今後さらに検討し明確化する

ホームグラウンド

R5目標：CS委員と二中ゾーン教職員が顔の見える関係に！

学校

PTA

学童
⇕ 地域
保護者

おやじの会

・おやじの会活発



職業人に話を聞く会（二中）
地域コーディネーター活用
市内在住の職業人の協力

- ・学校としてやりたいことがあるが人手不足なの？
- ・挨拶運動（民生委員）
- ・小・中学校が一緒になって行う
- ・円陣でござろうさま

- ・普段から声を出す（機会要）
- ・顔を知っていることが大事

- ・教育の負担
- ・人手が足りない

- ・楽器
- ↓
- ・発表会
- ・スキルを持った地域の人

- ・小学校区を越えた繋がり
- ・学校
- ↓
- ・コーディネーター
- ↓
- ・PTA

児童館

- ・二中学区でのイベントを通じて、二育の行事を学校行事の一環として

- ・行事を地域の人に知ってもらう
- ・地域と学校の一体化
- ・来賓
- ↓
- ・スタッフ

地域

- ・教育活動以外で協力

◎郷土「狛江」を愛する児童・生徒

◎互いに感謝の気持ちをもつ児童・生徒

多摩川・水辺の楽校の活用、学区探検など（三小・六小）



○地域の人へ気持ちよく挨拶できる児童・生徒

六小にて

三小にて



ふれあい月間「二中ゾーン小中合同あいさつ運動」
民生・児童委員の方々と一緒に！（6月・11月・12月）

○音楽の街「狛江」合同発表会

吹奏楽（二中）金管（三小）合唱（六小）

○展覧会相互出品

○三校合同あいさつ運動

○学習活動の情報共有・交流（交換展示）

- ・多摩川の学習（水辺の楽校）
- ・地場野菜体験（地域農家・JA）
- ・防災体験（水防訓練・防災訓練）
- ・地域行事のポスター掲示場所設置

1月20日（土）予定
ふれあい広場（防災）
第2育成委員会

CS委員の方々と教職員の顔の見える関係づくり



CS委員を交えて9分科会にて協議（年3回）



- 三校の職員の交流（顔を知る・得意を知る）→授業の交流
- 人手不足・人材派遣（校内の児童・生徒の見守り・ミシン、金管、そろばん、PC等人材・キャリア教育の講師）
- 机・イスの教室の雑音対策（足にテニスボールを付ける）

◎学校の抱える課題を学運協の協力で解決する！ 学運協によって学校が援護支援を受ける！